

1 学 年 第3学年～第6学年

2 教 科 体育科

3 実践内容

本校は全校30人未満で、体育は1・2年生の複式1学級、

3～6年生は複式2学級の合同体育を行っている。

(1)利点

- ・声掛けの増加・・・ 児童数21名に対して2名の教員で指導に当たっているため、個別の活動でもチーム活動でも、指導時に個々に声を掛けることができる回数が多い。
- ・安全管理・・・ 複数の場を設定しても目が行き届きやすい。安全に配慮するだけでなく、子供たちの活動量を確保することにつながっている。
- ・的確な評価・・・ 教員が複数いることで見取りの目が増え、授業後に子供たちの表れを話したり、評価ポイントを整理したりすることで、よりの確な評価につなげることができている。
- ・学び合い・・・ 3・4年生の子供たちにとっては、体が大きく、自分たちより運動経験が多い上級生を常に手本にできる。上級生と下級生をペアにすることが多いが、上級生が下級生に動きを教える場面が多く見られる。
- ・見通しと振り返り・・・ 3・4年生は高学年で取り組む内容や技を間近で見ることができるだけでなく、学年が上がった時の具体的なイメージを持ちながら運動に取り組める。5・6年生にとっては、下の学年の場に参加しながら基本の技を見直したり、難易度の低い場で体の動きをじっくり確かめたりすることができる。

(2)課題点

- ・ルール設定・・・ ボール運動では、4学年全体の運動能力を見極めた上で、ルールをどう設定するかが非常に難しい。競技によっては、3年生にとって難しい運動になってしまったり、反対に6年生にとっては物足りないものになってしまったりすることがよくある。
- ・向上心の育成・・・ 高学年になると、下級生が多くいる中で自然と活躍の場が増えるのだが、そのことで満足感を得てしまい、技能の習得や向上していくための思考をおろそかにしてしまう傾向がある。下級生に合わせながら活動する中で、チーム競技でも勝敗へのこだわりが薄れすぎてしまっているように見受けられる。このことは、技能習得を早々に諦めてしまったり、消極的な姿勢を見せたりしてしまうことにつながっている。

4 今後に向けて

個人競技では場の設定を工夫して、より充実したものにしていくことで、子供たちが主体的に学ぶ環境を整えていきたい。チームでの活動（主にボール運動）では、子供たちの実態を見極めながら、3・4年、5・6年それぞれの目標を分かりやすく示すことで、子供たちの向上心を育てていきたい。

